

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立鶴ヶ島清風高等学校)

目指す学校像	地域に貢献できる人材の育成
重点目標	1. 「自ら考える力」の育成 2. 「健全な職業観」の育成 3. 「社会で通用する人間力」の育成

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇談会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学 校 自 己 評 価					学 校 自 己 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月17日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①新型コロナウイルス感染症拡散防止のための臨時休業に伴う授業時間減を計画的に補充する必要がある。 授業を理解できる生徒は各年次60%を越え、徐々に向上しているが、引き続き分かりやすい授業を目指して授業改善に取り組む必要がある。	授業改善の推進 基礎学力の徹底	①アクティブラーニング、学びあい、双方向のやり取りを通して質問能力を高めるなど、生徒の「自ら考える力」を育成するための授業改善に取り組み、研修会や公開授業を実施する。 ②本年度整備予定のタブレット・プロジェクターを活用したわかりやすい授業法を研究する。	①生徒アンケートの授業に関する項目の回答状況 ①研修会、公開授業の実施状況 ②ICT機器が授業で適切に活用されているか。	①「授業に満足している」78.0%(昨年度)→87.6%(今年度) 「授業が理解できる」73.1%→80.6% ①授業力向上を目的とした授業公開週間を各学期に実施した。また、学力向上やICT活用を目的とした研修会を7回実施した。 ②教室に整備されたプロジェクトの活用が定着している。 Google classroomの活用を始め、新たなICTの活用に取り組んだ。	A	・基礎学力の定着に引き続き取組むとともに、「自ら考え行動できる力の育成」を目標にした授業改善や、令和4年度からの総合的な探究の時間の検討に取り組む。 ・プロジェクト活用による効率的で分かりやすい授業の定着と、タブレットやWi-Fi環境を活用した授業法について研修を深める。
	②自主学習の習慣付けをさらに進め、授業以外の学習時間を増加していく必要がある。 基礎学力定着の取組を継続し、さらに成績上位層を伸ばす必要がある。	自主学習や発展的学習の取組を推進	①各教科において、日常の授業への取り組み方の指導及び予習・復習を励行する。また、Google Classroomを活用した自宅学習を実践する。 ②個々の生徒の夢実現に向けて、進路指導もふくめて学習面で適切なアドバイスを行うとともに、自習室の活用や進学・資格検定補習の充実を図る。	①基礎学力テストの成績が向上したか。 ①成績優良者数が増加したか。 ②生徒アンケートにおいて、「学校以外の学習ゼロ時間」と回答する生徒が減少したか。	①学校レベルとして、1,2年次は若干向上したが、3年次は現状維持となった。 ①2学期の成績優良者の割合は10.4%で、昨年度より、0.3%微増した。 ②「授業外の学習時間はゼロ」34.6%→30.0%と減少した。 ②自習室の利用については、バラツキがあるが2年次において2教室設定した。 ②各年次において夏季休業中に特別講座を実施した。英語検定、漢字検定の受験者が増加し、補習も学習指導員を活用するなど充実を図った。	A	・基礎力診断テストをもっと有益に活用する方策を検討する。 ・検定や外部試験等を活用し、生徒の学習意欲を喚起し、目標達成による自己肯定感を醸成する。
2	①新型コロナウイルス感染症拡散防止のためインターンシップ(1年次)を中止とした。臨時休業の影響で3年次の進路活動に停滞が生じないようにする必要がある。 引き続き、生徒自身が将来を見据えて進路実現について主体的に考える姿勢が向上するように各種ガイダンスや進路行事の質を高める。	進路意識向上 及びガイダンス機能を充実させたキャリア教育	①進路ガイダンスや年次集会等を利用して進路活動への動機付けを促進すると共に、より質の高い進路講演会・講義・見学会を多く実施する。 ②インターンシップ(1年次)と同等の成果がある質の高いキャリア教育を実践する。	①生徒の進路希望実現状況 ①就職希望者が100%就職できたか。 進路未決定者が10%以内であったか。 ②進路行事の実施状況	①3年次の進路決定において、第1希望に決定した生徒の割合は89.8%であった。 ①進路未決定者は、8.5%であった。(1月13日現在) ①2年次の進路希望調査において未定のものが半減した。 ②2年次で模擬試験を企画し、一部の生徒が高い結果を残し、進学補習等の成果があった。 ②感染症対策を図りながら、予定通りに各年次で分野別進路ガイダンスを実施できた。	A	・第1希望の進路実現と、より高い目標を設定させるため、早期に進路意識の醸成を図る必要がある。そのため、進路ガイダンス等のキャリア教育をさらに充実させるとともに、保護者に向けても情報提供を強化する。 ・第1希望合格を目指して、計画的に模擬試験を実施するなどスマールステップの目標を的確に提示する。 ・進学補習を1年次から計画的に取り組み大学進学に向けたサポート体制の充実を図る。
	②清風祭をはじめ生徒会主催行事をとおして、学校が活性化している。また、地域やNPO等と連携した事業に計画的に取り組んでいる。 引き続き生徒に積極的に学校行事や地域連携への参加を促し、母校愛の醸成と地域理解につなげることが大切である。	社会性・公共性意識の向上	①全校集会等における整容指導やルール遵守の指導に粘り強く取り組む。 ②思いやりの心を育む指導に取り組む。	①整容指導違反者の状況 ①問題行動等が前年度より減少したか。 ②生徒アンケートの人間関係に関わる項目の回答状況	①整容指導対象者は、昨年度と同等であった。 ①問題行動件数は、昨年度とほぼ同数であった。 ①授業のチャイム着席や集会での集合状況は良好であり、規律ある自発的な行動が確立されている。 ②生徒アンケートから、生徒同士及び生徒と先生の間関係が良好であると回答した割合が、昨年度より増加している。また、「日頃の挨拶ができています」との回答も85.1%→87.1%と微増した。	A	・整容指導対象者や問題行動の件数は、昨年度とほぼ同数であったが、数年前との比較ではかなり落ち着いている状況にある。教育相談を組織的に展開し生徒理解をさらに深め、粘り強い生徒指導に取り組む。 ・コロナ禍の影響で対外的な活動を自粛せざるを得なかったが、可能な限り学校の情報を発信した。同様に学校行事や地域と連携した事業も制限されたが、引き続き生徒に積極的な参加を促し、母校愛の醸成と地域理解につなげる。
3	①整容面(服装・頭髪)は改善された。継続的に高校生活でのルールや通学中の自転車乗車マナーを指導する必要がある。	社会性・公共性意識の向上	①全校集会等における整容指導やルール遵守の指導に粘り強く取り組む。 ②思いやりの心を育む指導に取り組む。	①整容指導違反者の状況 ①問題行動等が前年度より減少したか。 ②生徒アンケートの人間関係に関わる項目の回答状況	①整容指導対象者は、昨年度と同等であった。 ①問題行動件数は、昨年度とほぼ同数であった。 ①授業のチャイム着席や集会での集合状況は良好であり、規律ある自発的な行動が確立されている。 ②生徒アンケートから、生徒同士及び生徒と先生の間関係が良好であると回答した割合が、昨年度より増加している。また、「日頃の挨拶ができています」との回答も85.1%→87.1%と微増した。	A	・整容指導対象者や問題行動の件数は、昨年度とほぼ同数であったが、数年前との比較ではかなり落ち着いている状況にある。教育相談を組織的に展開し生徒理解をさらに深め、粘り強い生徒指導に取り組む。 ・コロナ禍の影響で対外的な活動を自粛せざるを得なかったが、可能な限り学校の情報を発信した。同様に学校行事や地域と連携した事業も制限されたが、引き続き生徒に積極的な参加を促し、母校愛の醸成と地域理解につなげる。
	②清風祭をはじめ生徒会主催行事をとおして、学校が活性化している。また、地域やNPO等と連携した事業に計画的に取り組んでいる。 引き続き生徒に積極的に学校行事や地域連携への参加を促し、母校愛の醸成と地域理解につなげることが大切である。	学校行事や地域連携をとおした人間形成	①学校行事や部活動を活性化させ、自主的・自律的に活動できる力を育成する。 ②鶴ヶ島市など地域やNPO等と連携した教育活動を積極的に展開する。 ③生徒の活動の様子を、学校通信やホームページで積極的に情報発信を行う。	①学校行事の取組み状況や部活動の活動実績 ②外部機関等との連携状況 ③ホームページの更新状況及び学校通信発行状況	①文化祭、修学旅行などの行事は中止となったが、それを補うような取組みを生徒会や各年次が工夫しながら実施した。部活動では、女子ソフトテニス部が県大会団体ベスト16など、活動が制限される中で成果をあげている。 ②今年度から食堂を委託したNPO法人カローレと連携し、献立作成の授業を実施するなど、制限がある中であるが、家庭科や生徒会を中心として地域と連携した教育実践を行うことができた。 ③学校通信「i-colors」3回発行、ホームページも各担当が逐次更新した。保護者アンケート「配布物や連絡等で学校の様子を伝えている」79.5%→82.2%と向上した。	A	・今後リモート活動やホームページ等をさらに充実させ、新しい生活様式に対応していくことが必要である。

学校関係者評価	
実施日 令和3年3月5日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・「授業に満足している」割合が昨年度よりも増えており評価できる。改善点として、授業に満足していない生徒が12.4%はいるので、満足していない生徒に焦点をあてて授業改善に取り組んでほしい。	・「授業に満足している」割合が昨年度よりも増えており評価できる。改善点として、授業に満足していない生徒が12.4%はいるので、満足していない生徒に焦点をあてて授業改善に取り組んでほしい。
・授業改善を進める中で、満足度・理解度も上昇し、自己肯定感も増している。自ら考える力は、知識を身に付けるだけでなくどの教科においても「なぜ」と踏み込むことにより思考力が鍛えられる。「なぜ」を重視した授業設計も必要ではないか。	・授業改善を進める中で、満足度・理解度も上昇し、自己肯定感も増している。自ら考える力は、知識を身に付けるだけでなくどの教科においても「なぜ」と踏み込むことにより思考力が鍛えられる。「なぜ」を重視した授業設計も必要ではないか。
・自ら考えること的前提は、色々なことに興味を持ち疑問を持つことである。ICT教育をより充実させ、生徒自らが活用できるようになり、スマホやパソコンで検索し、理解し、臨機応変に賢く行動できるように要望する。	・自ら考えること的前提は、色々なことに興味を持ち疑問を持つことである。ICT教育をより充実させ、生徒自らが活用できるようになり、スマホやパソコンで検索し、理解し、臨機応変に賢く行動できるように要望する。
・進路ガイダンス等、生徒達を刺激する取組がされている。	・進路ガイダンス等、生徒達を刺激する取組がされている。
・3年次の進路第一希望決定者89.9%は素晴らしい。職業生活に必要な基礎基本を身に付け、自己の持つ能力や個性を伸ばすキャリア教育を実践してほしい。	・3年次の進路第一希望決定者89.9%は素晴らしい。職業生活に必要な基礎基本を身に付け、自己の持つ能力や個性を伸ばすキャリア教育を実践してほしい。
・インターンシップが中止になり残念でしたが、継続的にチャレンジしてほしい。体験に優るものはない。	・インターンシップが中止になり残念でしたが、継続的にチャレンジしてほしい。体験に優るものはない。
・ホームページから素晴らしい魅力的な高校生の姿がうかがわれた。社会で通用するためには、コミュニケーション能力(話す、聞く、交渉する力の3つのスキル)を考えたときに、きちんと自分の意思を明瞭に伝えることのできる生徒を育成してほしい。	・ホームページから素晴らしい魅力的な高校生の姿がうかがわれた。社会で通用するためには、コミュニケーション能力(話す、聞く、交渉する力の3つのスキル)を考えたときに、きちんと自分の意思を明瞭に伝えることのできる生徒を育成してほしい。
・大学の連携協定などを活用し、「社会で通用する人間力」の教育に発展させてほしい。	・大学の連携協定などを活用し、「社会で通用する人間力」の教育に発展させてほしい。
・ネットモラル講演会は、今の時代には社会人として必要なテーマであり継続してほしい。	・ネットモラル講演会は、今の時代には社会人として必要なテーマであり継続してほしい。
・ICT教育の推進もされている様子は、社会に出て通用する人材を育成していると考ええる。	・ICT教育の推進もされている様子は、社会に出て通用する人材を育成していると考ええる。